第９回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS9）に参加して

～アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市を訪問～

閉鎖性海域の統合的管理の実現へ

「第九回世界閉鎖性海域環境保全会議（ＥＭＥＣＳ９）」が、平成二十三年八月二十八日から三十一日までの四日間、アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市のマリオット・ウォーターフロント・ホテルで開催され、当協会環境保全課杉本主任が参加及び研究発表を行った。

開催地のボルチモア市は、アメリカ合衆国東部のチェサピーク湾奥に位置し、国歌や星条旗が誕生した人口約六十万人の都市である。魚種の豊富な漁港があり、カニやエビなどが有名である。

アメリカ東海岸を襲った大型ハリケーン・アイリーンの影響によって、会議前日のボルチモア・ワシントン国際空港行きをはじめ、アメリカ合衆国東海岸都市行きの航空便はすべて欠航となり、参加者のほとんどが一日遅れでボルチモア市に到着するというハプニングがあった。そのため、会議初日は夕方からの開催となった。私も航空機が欠航となり、ボルチモア市から約六百五十キロメートル離れたデトロイト市で足止めされ、会議二日目の夕方からの参加となった。

当地の気候は、晴天になると日差しが強かったが、乾燥していることもあり、日本に比べて暑さは感じなかった。

世界閉鎖性海域環境保全会議は、閉鎖性海域の環境問題を総合的に解決するために、国際的・学際的な連携を図ることを目的とし、平成二年に神戸市で第一回会議が開催された。その後、二～三年に一度、閉鎖性海域と関係が深い都市で開催されている。

今回は、「閉鎖性海域の統合的管理を実現するための、説明責任と効果的な情報共有環境の確保」をテーマに、生態学的、経済的、文化的な側面による沿岸域管理の改善を産学官の連携で達成することを目的に開催された。主に世界各国の大学関係者、行政関係者が参加しており、日本からも多くの人が参加していた。

学会発表は、学術研究発表と環境政策発表の両面があるため、日本からの参加者は大学関係者が多かったこともあり、学術研究発表のレベルがやや物足らないという声もあった。

会場となった地元のチェサピーク湾における研究発表が多かった。チェサピーク湾は、アメリカ合衆国における最大規模の汽水域であり、湾奥部のメリーランド州から湾口部のバージニア州まで三百二十二キロメートルにも及ぶ。

チェサピーク湾沿岸都市の産業の発達と人口の増大によって、溶存酸素の季節的な減少、透明度の低下、海底への浮泥の堆積が起こり、魚介類の減少が明らかとなっている。これらを改善するために、環境保全への取り組みとして、湾内の窒素とリン含有量の削減を目標に、多くの研究者によってチェサピーク湾の生態系の回復と水質改善について研究されている。

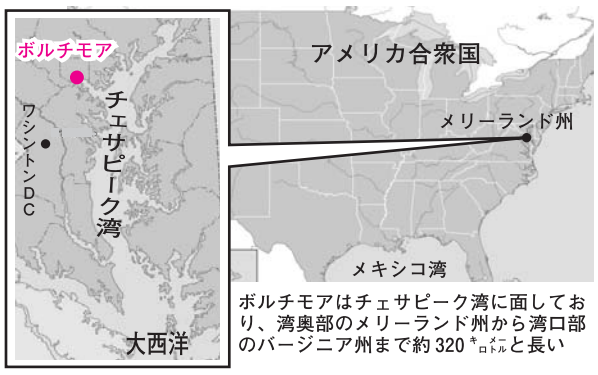
私は、会議三日目の午後に「山口県岩国市尾津地先のアマモ場における優占種の変化」という研究題名で発表を行った。発表内容は、以下のとおりである。

山口県岩国市尾津地先にはアマモ場が広がっており、「アマモ」と「コアマモ」と呼ばれる海草が分布していた。主に分布していたのは「アマモ」であった。アマモ場は、平成十六年九月に襲来した台風十八号によって壊滅的なダメージを受けたが、その後、徐々に回復した。回復後に主に分布したのは「コアマモ」であった。台風襲来後のアマモ場生育環境の変化と海草の種類の遷移について明らかにすることを目的に、調査・考察を行った。

会場からは、「アマモ」と「コアマモ」の主な分布拡大について、種から芽を出すのか株の分枝（地下部分が枝分かれすること）なのか質問が出た。「アマモ」については、空白地では種から芽を出すことによって分布が広がりやすく、密生地近辺では株の分枝によって分布が広がりやすい。ただし、種からの発芽によって分布が広がった場所は、短期間で分布が狭くなりやすい。「コアマモ」については、種からと株の分枝の両方で分布が広がっていくが、どちらが優先するか分かっていない。

次回の会議ＥＭＥＣＳ10は、トルコ共和国で開催されることが決まっている。

（環境保全課　杉本　憲司）



ボルチモアはチェサピーク湾に面しており、湾奥部のメリーランド州から湾口部のバージニア州まで約320キロメートルと長い

ボルチモア市インナーハーバー

山口県岩国市尾津地先のアマモ場における優占種の変化について発表を行う。登壇者が筆者

グリーンカーテンを科学する

蒸散作用で気温上昇を防ぐ

県内各地で効果を実証中

①グリーンカーテンとは

最近、庭先やベランダ、学校や公民館、ビルなど、いたるところでグリーンカーテンを見かけるようになりました。江戸時代の夏の必需品は、蚊遣り、風鈴、朝顔の苗だったという話もあり、グリーンカーテンは、夏を涼しく過ごす工夫として、先人の知恵を継承した民俗でもあります。

グリーンカーテンは、つる植物を幕状に栽培するもので、アサガオやゴーヤ、ヘチマ、ヒョウタン、フウセンカズラ、キュウリなどさまざまな種類が利用されています。栽培の動機は、花がきれい、みどりが爽やか、実が食べられるなどいろいろです。また、育ち具合や収穫物の調理法のコンテストなど、栽培を促進するイベントも各地で開催されています。

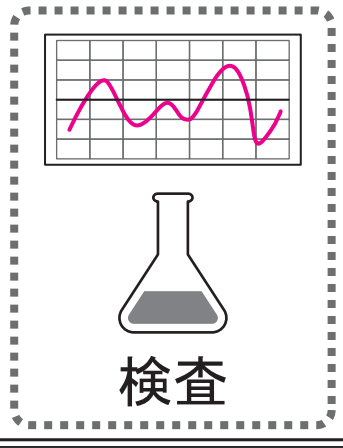
グリーンカーテンは、葉が直射日光を遮って日陰を作り、葉から水分が蒸発する〝蒸散作用〟で空気中の熱を奪い、気温の上昇を抑えます。この効果を活かして、エアコンの利用時間を短縮する、設定温度を高くするといった省エネ活動ができます。

そうは言っても、実際にどれくらいの省エネ効果があるのか検証した例は少なく、冷房を使いたい人たちを説得する根拠が薄弱です。そこで、県内の地球温暖化対策地域協議会と脱温暖化センターひろしまが連携し、グリーンカーテン内外の気温・湿度を測定し、電力使用量の削減量を調査するなど、グリーンカーテンの効果を実証する取り組みを始めました。

この連載では、それらの取り組み状況を紹介し、グリーンカーテンの効果について解説するとともに、栽培方法やちょっとしたコツなどを全四回シリーズで紹介します。

（脱温暖化センターひろしま）

県内各地に広がるグリーンカーテン。福山市脱温暖化ぬまくまフォーラムの会員宅（右上）、同福山市沼隈町の小学校（右下）、呉市安浦町の市民センター（左上）、尾道市総合福祉センター（左下）



水質検査のご案内

井戸水・山水などを安心してお飲みになりたい方へ

広島県では、
１年に１回水質検査を
行うことを推奨しています。

検査項目・搬入方法等詳細についてはお気軽にお電話ください　☎ 082-293-0163

HIROSHIMA ENVIRONMENT & HEALTH ASSOCIATION
財団法人 広島県環境保健協会
（水道法に基づく厚生労働大臣登録検査機関）
広島市中区広瀬北町９番１号